

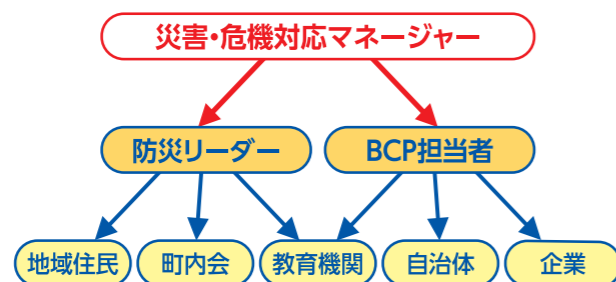
災害・危機対応マネージャーについて



「災害・危機対応マネージャー®」とは、「四国防災・危機管理プログラム」(香川大学・徳島大学共同開設)を受講し修了することで、災害や危機管理に関する知識の享受、助言、情報提供等を行うことが認められた者に授与される民間資格です。

「災害・危機対応マネージャー®」は、リスクコミュニケーションや危機管理学といった防災・危機管理に関する基礎科目だけでなく、各養成コースにおける専門的なリスクマネジメントに関する実践的な知識や技術を習得しています。職場や地域における防災・危機管理のリーダーになることを期待されるだけでなく、職場や地域の防災力向上に寄与すること、さらに、研究機関や自治体等との橋渡しも期待されます。

災害・危機対応マネージャーに期待される位置付け



災害・危機対応支援センターによる修了生のフォローアップ

災害・危機対応支援センターは、主たる構成員が災害・危機対応マネージャー®であり、四国の巨大災害に対する防災・危機管理に貢献することを目的に設立されたNPO法人です。四国の防災・減災の研究者・実務者等の専門家が連携、協力し、防災・危機管理に関する人材育成事業、普及啓発事業、教育・研究活動事業を組織的に実施します。

フォローアップ研修会や市民向け防災講座、学校の防災訓練の支援機会の提供などを通じて、災害・危機対応マネージャーのスキルアップや活動のサポートの役割を果たします。



香川大学創造工学部の防災訓練を支援

連絡先

香川大学
四国防災
共同教育センター
事務局

香川大学創造工学部 演習研究棟3F事務局
〒761-0396 香川県高松市林町2217番地20
TEL (087) 864-2539 FAX (087) 864-2554

徳島大学

徳島大学環境防災研究センター
〒770-8506 徳島県徳島市南常三島町2-1
TEL(088)-656-8965

四国防災共同教育センターホームページ | <https://www.kagawa-u.ac.jp/dpec/>



表紙のBPのロゴは、学び直したいと考える社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを「職業実践力育成プログラム」(BP)として文部科学大臣が認定した証です。

詳しくは、文部科学省のHP https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/bp/ をご覧ください。

四国防災・危機管理 プログラム



Brush up Program
for professional



行政・企業・医療防災・ 危機管理マネージャー 養成コース(香川大学)

地域社会を構成する自治体・企業・医療機関等の地域組織のリスクマネジメント、事業継続計画BCPやMCP策定、住民の安全・安心を守れる防災・危機管理マネージャーの育成を目指します。



行政・企業防災・ 危機管理マネージャー 養成コース(徳島大学)

地域社会を構成する自治体・企業・地域組織のリスクマネジメント、組織及び地域のBCP策定、住民の安全・安心を守れる防災・危機管理マネージャーの育成を目指します。



学校防災・ 危機管理マネージャー 養成コース(香川大学・徳島大学)

(今年度の募集は行いません)
地域コミュニティと連携して、学校・地域の防災教育、教育継続計画ECP策定、児童・生徒の安全・安心を守れる指導者の育成を目指します。



SHIKOKU

Disaster Prevention and
Crisis Management
Education Program

四国防災共同教育センター

四国防災・危機管理プログラムとは

香川大学と徳島大学が連携して実施するこのプログラムは、東日本大震災の教訓を踏まえて、また近年多発している地震や水害等の広域災害やグローバル化する危機に対して、迅速な状況把握のもとに適切な判断・意思決定を行い、減災・復旧・復興対応や組織・地域再生においてリーダーシップを発揮できる専門家を養成する取り組みです。この事業は香川県及び徳島県と連携し、実践力を備えた専門家の養成を目指しています。また、今後四国国立5大学連携事業として展開することを目指しています。

平成24年度に開始した本プログラムの修了生は、行政、企業、医療、学校の各分野において、職場や地域における防災・減災・危機管理のリーダーとして活躍しています。近い将来、南海トラフ巨大地震の発生が想定される四国地方においては、防災・危機管理の専門家の養成は必要性かつ緊急性の高い重要な事業であると考えています。関係機関との連携をさらに深め、地域防災力の向上に繋がる事業にして参りたいと考えています。皆様方のご支援・ご協力をお願い申し上げます。



プログラム概要

- 本事業は、東日本大震災を踏まえて、大規模広域災害やグローバル化する危機に対して適切に対応できる専門家の養成を目標としています。
- 南海トラフ巨大地震の発生が想定される中、香川大学と徳島大学は、「防災士養成講座」や「建設業BCP策定支援」等の連携実績・成果を活用して、香川県と徳島県の協力の下に防災・危機管理の専門家養成プログラムを開設し、社会が必要とする実践力を備えた人材を養成します。
- 本プログラムを受講し修了することにより、災害や危機管理に関する知識の享受、助言、情報提供等を行うことが認められる民間資格「災害・危機管理マネージャー®」が授与されます。
- 本プログラムの履修期間は2ヶ年を基本としています。



開設授業科目

- 「四国防災・危機管理プログラム」は、通常の大学における専攻とは異なり、各大学研究科・専攻科横断型のプログラムとして開講されます。本プログラムは、コース修了要件に沿って、履修し修得する必要があります。コース修了によって各大学研究科・専攻科の修了となるものではありませんが、プログラムを修了することにより各コース内容に沿った専門知識を身につけることができます。

科目区分	科目名称	概要
共同実施基礎科目	リスクコミュニケーション 危機管理学 災害と健康管理・メンタルヘルスケア 防災・危機管理実習	危機的な状況の発生の予防・回避のための事前対応力、危機発生後に被害を最小化するための事後のリスクコミュニケーションや対処行動、被災者の心のケアが出来るカウンセリング能力を、過去の災害課題や対処事例から習得します。
行政・企業・医療防災・ 危機管理マネージャー 養成科目群 (香川大学)	行政・企業・医療のリスクマネジメント 事業継続計画 (BCP・MCP) の策定と実践	企業などの実務家教員による講義、グループワークでのリアルな組織を想定した事業継続計画の策定演習により、事業継続計画の策定、策定した計画の実効性の確保に必要な知識を習得します。
行政・企業防災・ 危機管理マネージャー 養成科目群 (徳島大学)	行政・企業のリスクマネジメント 事業継続計画 (BCP) の策定と実践	企業などの実務家教員による講義、グループワークでのリアルな組織を想定した事業継続計画の策定、策定した計画の実効性の確保に必要な知識を習得します。
実務演習科目	行政・企業防災・危機管理実務演習 救急救命・災害医療実務演習	防災・危機管理に関する実務演習を通して、実務能力(職場・地域で実践できる行動力)を習得します。



履修について

- 基本的にオンラインで授業を行いますので、大学に通学せず職場や自宅からの受講が可能となります。



時間割

四国防災・危機管理プログラムの授業科目は次の時間で開講します。授業時間割の開講科目を基に受講科目の確認をしてください。

授業時間	
16:20 ~ 17:50	18:00 ~ 19:30

- 1つの授業科目は、1週間に1回、1学期間で16回(週)行うことを基本とします。
- 通学日は最大で週2日です。例として、現在開講しているコースでは、1年目の前期(4月~8月)は毎週月・火曜日、後期(10月~2月)は火・水曜日が講義日となります。
- 上記の他に16回の授業をまとめて行う集中講義もあります。
- 詳しい時間割については「履修の手引き」をご覧ください。



募集人員

四国防災・危機管理プログラム

- 行政・企業・医療防災・危機管理マネージャー養成コース(香川大学) 10名程度
- 行政・企業防災・危機管理マネージャー養成コース(徳島大学) 10名程度
- 学校防災・危機管理マネージャー養成コース(香川・徳島大学) 今年度は募集を行いません



出願資格

- ①大学を卒業した者又は卒業見込みの者
- ②連携大学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者



出願手続

出願にあたっては、事前に受講を希望する大学の担当窓口(巻末に掲載)までご連絡ください。

(1)出願期間

出願の締め切りは香川大学が2月末(医学部は2月中旬)、徳島大学は2月中旬です。

(2)出願書類等

申請書類等	摘要
受講申請書	所定の様式
入学願書	所定の様式
履歴書	所定の様式
卒業証明書等	最終出身学校の卒業(卒業見込み)証明書
所属機関等の承諾書	所定の様式 在職中の者は提出してください。
業績等の資料	出願資格②により出願しようとする者は、最終学歴後の学習・研究・実務の状況が分かる資料を提出してください。
検定料	9,800円
その他大学院が必要と認めた書類	大学院が必要と認めた場合は、上記以外の資料の提出をお願いすることがあります。

(3)プログラム受講費用

本プログラムの受講費用は【215,600円】です(教材費含む)。
 内訳: 検定料 9,800円
 入学料 28,200円
 授業料 14,800円×12単位 (各年の授業料の前期分は5月、後期分は11月に支払いとなります。)

※詳細は四国防災共同教育センターホームページの「出願案内」をご参照ください。

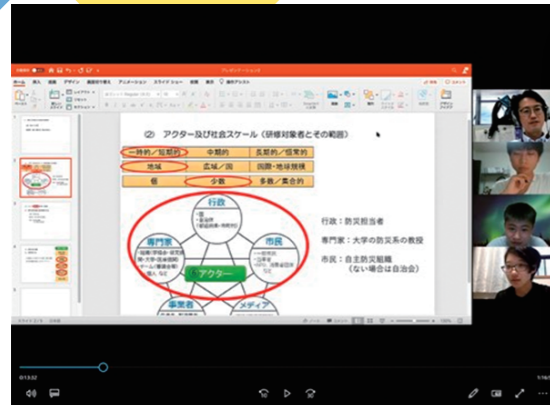


給付金制度

本プログラムは、厚生労働省の「教育訓練給付制度」の対象講座です。一定の申請要件を満たしている受講生は、入学金と受講料の最大70%の給付金を受給することができます。

授業風景

リスクコミュニケーション



TV会議システムでグループワークの課題発表

- zoomによる講義でありながら特に不自由なく受講できました。グループワーク等もチャットを利用しながら行うことで対面よりもワークが行いやすい環境であったと感じました。
- 企業で仕事をしているだけでは聞けない話もたくさん聞くことができ、BCPを担当している身として非常に有意義な時間を過ごさせていただきました。
- 講義においてさまざまな方からの講義を受講できてよかったです。特にグループワークを用いたものは印象に残っています。

危機管理学

- いろいろな種類の危機に対する専門家による講義があり、とても勉強になりました。
- 講義の内容などに関しては危機管理としての新たな知識、最終講義の発表での他人の考え方なども聞くことができ全体としてはすごく自分のためにもなる良い講義だったと思います。
- 現在進行形で広がっている新型コロナウイルスという危機だけでなく、災害といった危機に関してどのようなことを行っていかなければならないのかということをよく理解することができた。この講義で学んだことは、危機管理を考える上では重要な知識となってくるため、普段から頭に入れておきたい。



東日本大震災での病院初動の記録

災害と健康管理・メンタルヘルスケア



心理的応急処置(PFA)研修の様子

- 災害と健康管理やメンタルヘルスは深い関係にあることが今回の講義を通じてよくわかった。災害に起因するメンタル面の不調も多いことから、このような場合の対応について、PFA研修により得た知識を活かしていきたいと思った。
- 動画を記録していただけだったので、欠席した授業についても、受講したとき同様に受けることができたのは助かりました。聞き取りづらかったり、どんな説明だったか振り返るときに、再生が容易にでき、リアルタイムで受講するより逆に便利だったこともありました。
- 医療・福祉分野の先生方や行政職員の方々の講義を受けることで、今後社会人として働く上で役に立つ知識を学ぶことができました。PFA研修では講義・実習を通して自身のメンタルを管理したり、深刻な悩みを抱えている人の自殺を予防するために重要な知識を学ぶことができました。

SHIKOKU Disaster Prevention and Crisis Management Education Program

VOICE



受講生の声

四国防災・危機管理プログラム受講生の方に聞いてみました!



MESSAGE

講師陣からのメッセージ

近年、全国各地で様々な大規模災害が起きる中、新たな感染症対策が必要になるなど、時代と共に災害は変化、激甚化し、対応する技術も進歩しています。

このような災害事例や対応事例なども含め、防災・危機管理の知識を体系的に学び、グループワークや訓練なども交え実践的に学び、自治体・企業・医療・学校・地域などさまざまな領域において、未曾有の危機に対応できる防災、危機管理のリーダーを目指してください。

本プログラムでは、現場の第一線で活動している実務家教員、被災地調査や防災・減災技術の研究・開発に精力的に取り組んでいる教員が、みなさまの2年間の学びをサポートします。本プログラムの受講中に出来たさまざまな分野の受講生、教師人との絆は、修了後みなさまの財産となり、有事の際には頼れる仲間となります。

さあ共に学び、共に教え合い、 迫り来る大規模災害に備えましょう。

防災・危機管理実習



DIG(災害図上訓練)の様子



HUG(避難所運営ゲーム)訓練の様子

- 今まで講義の中で取り上げられていたことが実習によって身をもって感じる事ができた。今回防災に関する実習は初めてだったが、今回経験することによって次につながっていくと感じた。
- 社会人の方と実習を行えたことで、現場の現状を知ることができ自身の実習がより良いものになった。
- 他業種と訓練を実施できる機会は希少であり、大変有意義な時間となりました。大変お忙しい中このような研修会を開催していただき、ありがとうございました。
- 実際に対面での実習を行うことで、コミュニケーションの重要性や情報共有の難しさなども改めて再認識した。非常に有意義な実習であったと思う。



避難シミュレーションゲームの学習



総括DIG訓練

※各講義・実習の受講生アンケートに基づいて作成しました。

行政

笠井 武志

行政・企業防災・危機管理マネージャー
 坂出市総務部職員課危機監理室
 危機監理専門官



図上訓練の様子

受講のきっかけ

東日本大震災が発生した平成23年4月に坂出市に危機監理室が設置され、消防から危機監理室へ異動になりました。それまでは、消防士・救急救命士として各種災害対応・災害医療などに取り組んできました。また、(一財)消防防災科学センターの図上訓練指導員として全国の自治体などに図上訓練の指導に出かけていましたが、何か新しい話題はないかと考えていたところ、このプログラムがあるのを知り受講しました。

受講してみたの感想

今まで自分が取り組んできたことの正当性の再確認ができた。また、現場で活動している人と研究している人の乖離がかなりあることがわかったので、この乖離を縮めようと思いました。少しは縮められたのかな？

受講を考えている皆様へ

防災や危機管理に興味がある人、自治体で初めて防災・危機管理の部署に配属になった人は、防災・危機管理の基本として受講をお勧めします。

修了後の活動状況

第1期生としてプログラム修了後も坂出市総務部職員課危機監理室に勤務していましたが、平成30年度退職し、平成31年度からは、同じ危機監理室で危機監理専門官として勤務しております。プログラム受講後もそれまでと同じく、坂出市の防災・危機管理に関する業務に取り組むとともに図上訓練指導員として全国に指導に出かけたりしています。また、令和元年度から坂出市の危機監理室の職員、消防職員など10数名を対象に、「坂出市防災・危機管理スペシャリスト養成プログラム」を1年間(40時間程度)かけて養成していきます。そして、令和2年度からそのスペシャリストたちが全職員を対象に10時間程度の防災・危機管理の研修を実施していきます。また、個人的には今年度から香川大学の大学院に入学して防災・危機管理に関する研究をしていく予定です。

医療

島田 佐苗

救命救急・災害医療・公衆衛生対応コーディネーター
 養成コース 災害・危機対応マネージャー
 独立行政法人 労働者健康安全機構 香川労災病院 看護部



トリアージ実習

ローカルDMAT研修で
 デモンストレーションする場面

受講のきっかけ

2011年の東日本大震災の際に、香川県からの要請で発災9日後に自施設から宮城県南三陸町へ救護班として派遣されました。壊滅的な街の様子や活動場所で見守る人達とのふれあいのなかで、あまりにも自分自身が災害に対し無知であること、何もできなかったことを痛感しました。超急性期から急性期、亜急性期、慢性期、準備期までの災害サイクルのどんな場面にも対応できる能力を持ちたいと考えていた時、友人からこのコースを教えてくださいました。

受講してみたの感想

プログラム内容は、より深い災害医療の知識だけでなく、災害時に必要な危機管理の考え方や被災者との関係作りに必要なリスクコミュニケーションなど医療関係以外の講師の先生方からも有意義な講義を受けることができました。専門外の内容は理解するのに時間を要したこともありましたが、「災害」というキーワードで他分野・他職種と関わったこと、社会人として仕事を調整しながら仲間と共に修了出来たこと、講師の方々と共に頑張った同期生の人達との出会いは私にとって貴重な財産となりました。

受講を考えている皆様へ

近年日本各地で自然災害が頻発しています。温暖な瀬戸内地方でも、いっどこで被災し被災者になるのか、被災地当事者としての役割を担わなくてはならないかわかりません。平時にできないこと、想像したことがないことは危機の時に出来ません。被災し辛い辛い想いをする隣人を一人でも少なくするため、生き抜くために人間力を高めませんか？

修了後の活動状況

顧問の先生方のお声掛けもあり、様々な災害関連の研修(JMAT研修、BCP講習会、トリアージ実習等)のファシリテーターとして修了生数名で活動しています。また、自施設より派遣交流制度を利用し災害医療等を学びきっかけとなった東北に2年間赴きました。幾度か被災地を廻り、復興されていく景色を見てきました。未だ行方不明のご家族を待つ方や、家族を災害関連死で亡くされた方とお話する機会もありました。人と人のご縁で、現地ではコンダクター型災害保健医療人材養成プログラムを履修する機会にも恵まれ、あらゆるフェーズで実効的に対応する能力を身につけられるよう継続して学んでいます。

企業

大宮 佐知子

行政・企業防災・危機管理マネージャー
 株式会社ファルコン・徳島市消防団東富田分団



令和3年度まちかど博士前期



総括DIG

受講のきっかけ

1番のきっかけは消防団に入団したことです。消防団活動を通して災害について考えるようになりました。災害に関する知識を深め、地域の皆さんや会社にその学びを還元したいと思い受講を決意しました。

受講してみたの感想

仕事と学びの両立はとて大変でしたが、災害に対する最新の知識、災害対応力を学ぶことができました。特に印象に残っているのは集中講義です。朝から晩まで実践あるのみでした。学生・社会人が一緒に集団生活を行うことができた貴重な体験です。

受講を考えている皆様へ

このプログラムで得られるものは、知識や技能だけではありません。他業種の皆さん、学生さんとコミュニケーションを通じて繋がりを持つことができます。それは、今後の自身の活動や地域貢献に大変役立つものです。プログラムを通じて知り合った仲間や私達と一緒に活動しませんか。

修了後の活動状況

自社の災害対応訓練やBCPIに携わりながら、年2回程度シビックセンターにて一般向けの防災講座を開講しています。また、日本防災士会徳島県支部にも所属して、防災士会に依頼がくる出前講座などもできる範囲で実施しています。そして、卒業生と一緒にチームを組み小学校などへ出前講座やこのプログラムの実習サポートを行っています。

福祉

青木 正繁

行政・企業防災・危機管理マネージャー
 医療法人新心会 介護老人保健施設悠心館
 支援相談員(SW)
 NPO法人災害・危機対応支援センター監事
 阿南防災士の会副会長



「現場から考える!!
 老健のBCP」

受講のきっかけ

私は、介護保険施設サービスのひとつであり、高齢者の自立を支援しリハビリで在宅復帰を目指す【介護老人保健施設】で支援相談員(SW)として勤めています。また、施設の防火管理者も努めており、利用者の安心・安全を守る為に初期消火訓練や避難誘導訓練等を指揮・担当して来ました。もっと自身が介護施設における災害対応について学び、介護施設業界でBCPを広めたいとの強い思いから当プログラムコースの受講を決めました。

受講してみたの感想

当プログラムを受講し、様々な災害対応について学ぶ場で、年齢や職種、専門性の違う受講生メンバーと更に専門家の先生方と意見を出し合い、被災者支援や行政機関等との連携に対してより良い手順や手法、対応を学ぶ場(機会)に巡り合えたのが自身の防災知識及び技術の向上に繋がったと思います。当プログラム講義の中には災害対応に対するグループワーク討議も数多くあり、私の勤める介護現場の「チームケア」と同じように各部署間での「連携」をする事の大切さも再確認出来ました。学んだ事項を現場で活かして、介護施設業界でのBCP構築へ向けしっかりと活動をして行きたいです。

受講を考えている皆様へ

全国各地で自然災害が頻発しております。特に介護施設業界の皆さん、是非この機会に利用者の安心・安全を守る防災知識の向上に活かす為のプログラムの受講をお勧めします。介護施設で防火管理者など防災・危機管理の部門を担当する方は、防災・危機管理の基本としてプログラムの受講を是非お願いします。

修了後の活動状況

介護施設業界のみならず地域防災においても当プログラムで学んだ防災知識を十分に活かした新たな防災意識向上策等を、共に学んだ仲間(OB・OG)の皆さんと一緒に展開活動して参ります。